



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **02216600 A**(43) Date of publication of application: **29.08.90**

(51) Int. Cl.

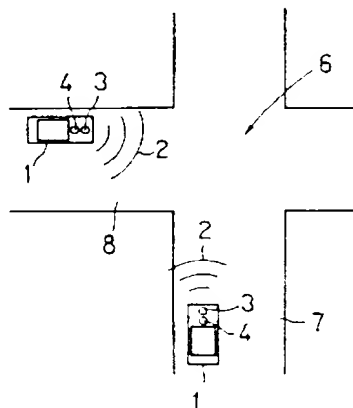
G08G 1/16**G08G 1/09**(21) Application number: **01037531**(71) Applicant: **OHARA SHOJI**(22) Date of filing: **16.02.89**(72) Inventor: **OHARA SHOJI**(54) **PREVENTION OF TRAFFIC ACCIDENT**

(57) Abstract:

PURPOSE: To know the approach of vehicles and to effectively prevent the generation of a traffic accident by allowing a receiving equipment of a comparatively large traffic vehicle to receive an alarm radio wave generated by a transmitting equipment provided on other comparatively large traffic vehicle or various traffic related goods.

CONSTITUTION: When an ordinary automobile 1 passes through each road 7, 8 in the vicinity of an intersection 6, drivers of each ordinary automobile 1, 1 can know the approach of each automobile by allowing receiving equipments 4 provided on vehicles driven by themselves to receive mutually alarm signals 2 generated by transmitting equipments 3 of an other vehicles. Therefore, each driver executes deceleration, slow-down or a running stop, etc., in accordance with necessity.

COPYRIGHT: (C)1990,JPO&Japio



⑫ 公開特許公報(A) 平2-216600

⑤ Int. Cl.⁵G 08 G 1/16
1/09

識別記号

C
H

庁内整理番号

6821-5H
6821-5H

⑬ 公開 平成2年(1990)8月29日

審査請求 有 請求項の数 2 (全3頁)

⑭ 発明の名称 交通事故防止方法

⑮ 特 願 平1-37531

⑯ 出 願 平1(1989)2月16日

⑰ 発 明 者 大 原 昭 司 広島県福山市青葉台1丁目25-1

⑱ 出 願 人 大 原 昭 司 広島県福山市青葉台1丁目25-1

⑲ 代 理 人 弁理士 倅 熊 弘 稔

明 細 書

1. 発明の名称

交通事故防止方法

2. 特許請求の範囲

(1) 三輪以上の比較的大きい交通車両には半径凡そ20～40mの領域に及び警報電波を発信可能とした発信装置及び一定の警報電波を受信可能とした受信装置を具備せしめ、また二輪以下の交通車両などからなる各種交通関係品には前記発信装置のみを具備せしめ、比較的大きい交通車両相互の近接或いはこれら交通車両と交通関係品の近接を前記受信装置により監視しつつ交通車両の運転を行わしめるようにすることを特徴とする交通事故防止方法。

(2) 各種交通関係品が杖、乳母車、盲導犬或いは身体障害者用特殊車両などを含むことを特徴とする請求項1記載の交通事故防止方法。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は電波を利用した交通事故防止方法に関

する。

(従来技術)

交通戦争による犠牲者が年々増加する傾向にある現今、効果的な交通事故防止対策が要請されている。

このため従来では交通法規を改善するなどして対処しているが、未だ不十分である。

(発明が解決しようとする課題)

本発明は斯有る実情に鑑みてなされたもので、交通事故の発生を効果的に阻止することを可能ならしめる交通事故防止方法を提供することを目的とする。

(課題を解決するための手段)

上記目的を達成するため、本発明の交通事故防止方法は三輪以上の比較的大きい交通車両には半径凡そ20～40mの領域に及び警報電波を発信可能とした発信装置及び一定の警報電波を受信可能とした受信装置を具備せしめ、また二輪以下の交通車両などからなる各種交通関係品には前記発信装置のみを具備せしめ、比較的大きい交通車両

相互の近接或いはこれら交通車両と交通関係品の近接を前記受信装置により監視しつつ交通車両の運転を行わしめるようにすることを特徴とする。

なお、上記の各種交通関係品とは例えば杖、乳母車、盲導犬或いは身体障害者用特殊車両などを云う。

(作用)

受信装置を具備せしめた比較的大きい交通車両の運転者は、たとえ視界が悪いような場合でも、同車両の受信装置に他の比較的大きい交通車両或いは各種交通関係品に具備せしめた発信装置の発する警報電波を受信せしめることにより、それらの接近を知ることができるのである。

このため運転者は事故発生の可能性を事前に判断することができ、必要に応じて減速、徐行或いは停止などして安全運転を行い得るものとなる。

(実施例)

以下、図面を参照して本発明の実施例を説明する。

第1図～第4図は何れも交通の様子を示す説明

ことになり妥当でないため、半径凡そ20～40mの領域に達するようになすのが最適である。他方受信装置4はこれを具備せしめた交通車両以外の交通車両などに具備せしめた発信装置3の発する警報電波2を受信可能となすことが必要であり、また警報電波2を受信したときの受信信号は音や光などで表現せしめるが、このさい一定時間(例えば数十秒間)以上連続して警報電波2を受信したようなときに自動的に非作動状態となるようになすことなどは自由である。

また二輪以下の交通車両などからなる各種交通関係品には前記発信装置3のみを具備せしめるのである。ここで二輪以下の交通車両とは前述した三輪以上の交通車両と衝突したさいに重大な交通被害を受けやすい諸種車両を云い、二輪自動車、原付自転車、自転車或いは一輪車などがある。また各種交通関係品とは前記二輪以下の交通車両のほか、身体障害者用特殊車両、乳母車、杖、靴或いは盲導犬などを含めたものを云う。

第3図には発信装置3を具備せしめた杖5が示

図である。

本発明では三輪以上の比較的大きい交通車両、即ち例えば各図に示すような普通自動車1に対しては、半径凡そ20～40mの領域に及び警報電波2を発信可能とした発信装置3及び一定の警報電波2を受信可能とした受信装置4を具備せしめる。ここに比較的大きい交通車両とは二輪車や歩行車と衝突したときこれらに対し重大な被害を与えられようとする車両を云うのであり、トラック、バス、軽四輪自動車、小型特殊自動車など種々のものがある。また発信装置3は発信せしめる警報電波2の周波数や発信形態(電波の強弱とか発信間隔など)を交通車両によって種々に変えたものになすことが可能である。該発信装置3の発する警報電波2は余りに広い領域に達するものとするれば、受信装置4に不必要な警報電波2(即ち、全く衝突の判断に寄与しないもの)を受信せしめることになり、逆に余りに狭い領域にしか達しないものとするれば受信装置4が警報電波2を受信する時期が遅すぎて事故防止に間に合わない

されているが、この場合の発信装置3は例えば杖5の先端を一定力以上で突くことにより作動状態と非作動状態が切り換わるようになしておくのが便利である。

しかして、比較的大きい交通車両の運転者に他の三輪以上の交通車両や各種交通関係品の近接を前記受信装置5で監視させつつ運転を行わしめるのである。

以下具体例により実際の運転方法を説明する。

第1図は交叉点6付近での各道路7、8を普通自動車1が交通する様子を示すが、このような場合には各普通自動車1、1の運転者は自身が運転する車両に具備せしめた受信装置4に他の車両の発信装置3の発する警報信号2を互いに受信せしめることにより相互の近接を知り得るのであり、各運転者は必要に応じて減速、徐行或いは走行停止などとする。

第2図は交差点9に於いて普通自動車1が二輪車両10を曲がり内側に置いた状態で左折する様子を示すが、このような場合、普通自動車1の運

転者はたとえ二輪車両10が運転者の視界の死角に入っていたとしても、自身の運転する車両に具備せしめた受信装置4により二輪車両10に具備せしめた発信装置3の発する警報電波2を受信してその存在を知ることができ、安全を確かめつつ運転することになる。

第3図は杖5をついた老人などが横断歩道を渡っているとき普通自動車1がその老人に近接した様子を示すが、このような場合、普通自動車1の運転者は自身の運転する車両に具備せしめた受信装置4により杖5に具備せしめた発信装置3の発する警報電波2を受信してその存在を知ることができ、注意しつつ運転することになる。

第4図は見透しの悪いカーブ11に一方から普通自動車1が、そして他方から二輪車両10が侵入する様子を示すが、このような場合、普通自動車1の運転者は自身の運転する車両に具備せしめた受信装置4により二輪車両10に具備せしめた発信装置3の発する警報電波2を受信してその近接を知ることができ、走行停止、徐行或いは警笛

を鳴らすなどして安全運転をすることになる。

(発明の効果)

以上のように本発明によれば、見透しの悪い状況であっても、交通車両などに具備せしめた発信装置3及び受信装置4により交通車両相互の近接或いは交通車両と各種交通関係品の近接を知り得て未然に事故の発生を防止し得るものである。

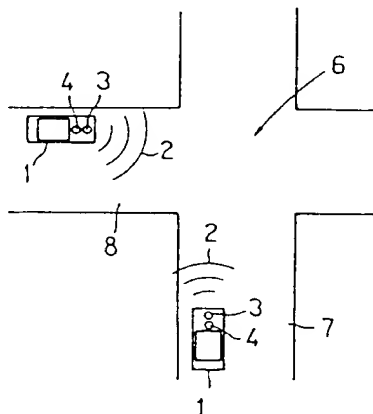
4. 図面の簡単な説明

第1図～第4図は何れも交通の様子を示す説明図である。

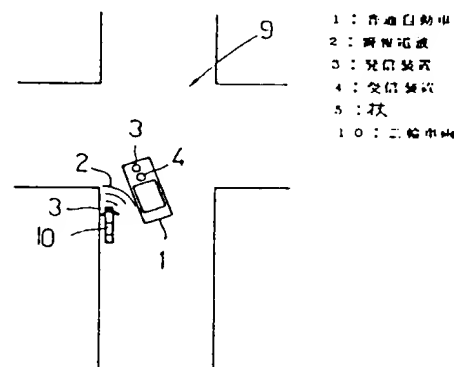
- 1・・・普通自動車(比較的大きい交通車両)
2・・・警報電波、3・・・発信装置、4・・・受信装置、5・・・杖(交通関係品)、10・・・二輪車両(交通関係品)。

特許出願人 大原昭司
代理人 弁理士 仲熊弘毅

第1図

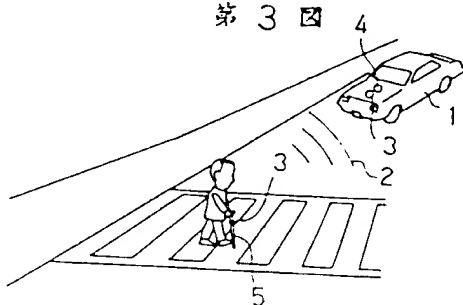


第2図



- 1: 普通自動車
2: 警報電波
3: 発信装置
4: 受信装置
5: 杖
10: 二輪車両

第3図



第4図

